

脚色者 帝國キネマ映畫
監督者 石川聖二氏
編輯者 細山喜代松氏
撮影者 青島順一郎氏
音響者 高橋武明氏
音響者 藤原邦二郎氏
音響者 鈴木香一氏
音響者 水島亮太郎氏
音響者 矢田笑子氏
音響者 林正夫氏

主要役割
神崎(刑事) 葛木
おせん(娼妓上り) 鈴木
根石(運送店主) 水島
おおさ(お嬢) 矢田
鬼(お嬢) 林
藤原(運送屋の小僧) 正
長(裕助) 夫

達(裕助) 堀垣浩氏
「略筋」(廢生活を十何年か眞面目に續けて來た) 藤原邦二郎氏
お仙(お嬢) お仙は漸く解放されたが何處へ行くのもなかつた
お仙は勤めの中來て吳れた遊客の家を訪ねたが誰一人話を相手になつて呉れる者すらなかつた
が誰一人が誰かを冷酷な世間ば正直なそうして無智なお仙を恵まなかつた
お仙はこの愚かな憐れな女も可憐なる幼児に依つて漸く人庄の曙光を見出す事が出来た
娼妓(上り) の無智な女を扱つた狙い所は確かに面白い。そつこで見事にその特殊の女の性格が運命の描寫を巧みに見せ(居る事に敬服した
然し) その成功の大半は鈴木歌子嬢の老練なる演技の力にある事は勿論ではあるが脚色も監督も頗る眞面目であり底力ある事は賞讃の價値が充分ある。場面々々の細い汁意もよく行届いて居るもの嬉しく感じられた。葛木氏も水島氏も端役ながら忠實にその役を勤めて鈴木歌子嬢の主役を完全に生かさせて居る。撮影及び編輯も破綻なく先づ堅實な映畫と云へよう。

山本(裕助)
絹葉(お嬢)
（二月三日）

興行價値——立派な社會劇ではあるが一般の觀客は喜劇映畫の如き積りで見るだろう。それ丈観興行價値も相當に有る。

大阪芦邊劇場封切)